

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

生徒の持てる力や可能性を最大限伸ばす「創造力を育む学校」をめざす。

- 1 地域やグローバルな社会を『たくましく生きる力』の基となる「豊かでたくましい人間性」の涵養
- 2 地域やグローバルな社会を『たくましく生きる力』の基となる「基礎体力」・「確かな学力」の定着
- 3 将来の生き方をデザインし、自ら学び続けることができる生徒の育成
- 4 自ら学び続ける教師集団の確立

2 中期的目標

- 1 地域やグローバルな社会を『たくましく生きる力』の基となる「豊かでたくましい人間性」の涵養

(1) 安全安心な学校生活

ア 生徒をより深く理解するために、「個人面談週間(4月・6月・11月)」を充実させる。

また、「学年会議」「支援教育委員会」「ケース会議」等で、生徒情報を共有化し、中退やいじめの防止に努める。

※ 生徒の「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」(R2:58.9%, R3:66.8%, R4:76.2%をR6年には80%にする)

※ 保護者の「学校は親身になって相談に応じてくれる」(R2:67.8%, R3:88.1%, R4:86.0%をR6年には90%にする)

(2) 主体的に多様な人と協働しながら学ぶ態度を養う。

ア 地域社会や学校の一員としての自覚と責任感を持ち、愛校心及び他者を思いやる心を養う。校内外での活動で生徒が活躍できる場を提供する。

※ 「泉南警察防犯ボランティア」「阪南TVはなていチャンネル」「農園活動」等地域社会との交流の充実を図る

イ 基本的な生活習慣の確立

※ 年間遅刻者数 (R2:8173人, R3:7350, R4:5123人をR6年には1000人以下にする)

※ 年間欠席者数 (R2:7722人, R3:7685人, R4:5682人をR6年には1000人以下にする)

ウ 生徒が学校行事を自主的に企画・運営することで達成感を実感させる。

※ 生徒の「文化祭・体育祭は楽しく行えるよう工夫されている」(R2:57.5%, R3:66.8%, R4:82.5%をR6年には90%にする)

(3) 人権尊重の教育の推進

ア 人権教育推進計画の作成及び実行

※ 生徒の実態を踏まえ、本校生徒に即した計画を立て、計画に沿った学習・研修を実行する。

イ 同和教育・ジェンダー平等教育・互いを認め合い、共に生きる教育の推進

※ 人権教育の一環としてあらゆる教育の推進に努め、教員への研修、生徒への教育を実施する。

- 2 地域やグローバルな社会を『たくましく生きる力』の基となる「基礎体力」・「確かな学力」の育成

(1) 「学ぶ楽しさ」「わかる喜び」生徒のやる気を引き出す。

ア ICT活用した取り組み・1人1台端末の効果的な活用による、「学ぶ楽しさ」「わかる喜び」で、生徒のやる気を引き出す。

※ 教員の「ICTを使って授業を展開している」(R4:100%を維持する)「ICTを使って双方向の授業を展開している」(R6年には80%にする)

※ 生徒の「授業などで1人1台端末を活用している」(R4:80.6%をR6年には100%にする)

イ 少人数展開授業をはじめ、各授業や講習、補習の充実を図り、基礎基本の定着に努める。

※ 生徒の「授業はわかりやすく楽しい」(R2:60.7%, R3:62.1%, R4:70.6%をR6年には80%にする)

(2) 生徒に「知能・技能」「思考力・判断力・表現力」の育成

ア 生徒の多様な学びの要望に応えるカリキュラムや課外プログラムの提供に努める。

イ 生き抜いていく基となる資格取得を進める。

※ 「漢字検定」の全生徒受験・「英語検定」「簿記検定」受験推進および合格率向上

ウ あらゆる科目において、「考える」「まとめる」「発表する」参加体験型のアクティブラーニングを研究する。

※ 生徒の「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」(R3:60.1%, R4:66.1%をR6年には80%にする)

※ 生徒の「自分の学力の向上を実感している」(R2:47.6%, R3:54.9%, R4:67.6%をR6年には70%にする)

- 3 将来の生き方をデザインし、自ら学び続けることができる生徒を育成

(1) キャリア教育プランの実行

ア 3年間のキャリア教育プランに基づき、進路意識の高揚を図り、生徒個々が将来の生き方をデザインする。

※ 生徒の「将来の進路や生き方について考える機会がある」(R2:63.8%, R3:80.4%, R4:83.2%をR6年には90%にする)

イ あらゆる教育活動を活用し、生徒や保護者へのきめ細やかな情報の提供を行う。

※ 生徒の「学校は進路についての情報を良く知らせてくれる」(R2:62.6%, R3:82.5%, R4:83.6%をR6年には90%にする)

ウ 卒業時の進路未決定者の割合を減らす。(R2:5.0%, R3:4.1%, R4:2.4%をR6年には0%にする)

- 4 自ら学び続ける教師集団の確立

(1) 授業改善のための学び合い

ア 外部の力を活用した研修を行い、自ら学び続ける教師集団を育む。

※ 教員の「学校の教育活動について、教職員で日常的に話し合っている」(R2:77.6%, R3:91.7%, R4:82.1%をR6年には100%とする)

イ 外部の研修に参加しやすい職場環境を保持し、研修で得た情報や知識を校内研修で共有し還元する。

ウ 授業観察及び相互の意見交換を行うことで自ら授業改善に取り組む。

※ 生徒の「他の先生が授業を見学に来ることがある」(R2:52.6%, R3:57.6%, R4:55.8%をR6年には80%とする)

(2) 教員が本校生徒、学校の実情を知る。

府立泉鳥取高等学校

ア 情報交換の場を設けることで交流を促す。

※ 教員の「若手教員と先輩教員の交流を定期的実施している」(R2:49.0%, R3:83.4%, R4:82.1%をR6年には100%とする)

イ ミドルリーダーの自覚を促し、学校の活性化に向けての取組みを立案させる。

※ 教員の「学校教育計画・学校経営計画の重点目標に照らして目標を設定し教育活動を行う」(R2:79.6%, R3:86.1%, R4:78.1%をR6年には100%とする)

5 働き方改革に関する取組み

(1) 業務改善の推進

ア 学校行事や会議、打合せ等の見直し、会議や打合せ等の効率化、事務の電子化等の合理化を図る。

イ 部活動の負担軽減

※ ガイドラインの作成、土日の活動はどちらかにするなどのルール作り

ウ 勤務時間に関する意識改革と時間外勤務の抑制

※ 出退勤時刻の適正管理、時間を客観的把握と必要に応じた指導・助言、会議や打合せ等が勤務時間外に及ばないように留意する。(月80h以上の超勤者0人)

エ 学校を支援する人材の確保

※ 学校の教育活動を支援するボランティア等の外部人材を積極的に活用する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析[令和5年12月実施分]					学校運営協議会からの意見																																							
<p>学校経営計画が、どのように取り組んでいるかが分かるよう各質問項目を選び、経年変化を考察する。なお、今年度は質問項目を精選しており、昨年度と質問項目が変わっている部分については、近似した項目を並列している。</p>					<p>【第1回6月9日(金)】</p> <p>学校経営計画については、全会一致で承認。 学校経営に関するご意見は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育祭は工夫され活気がある。(地域住民) ・地域の企業として、協力できることはする。泉南JCは文化祭のキャンドル等協力してもらっている。逆に地元の行事に協力してもらえるか。(地域住民) ⇒ 生徒次第だが、3年は進路が忙しく、2年は人数が少ない。できるだけ協力する。(自治会部) ・地元としては二百数名入れなくなった子どもが他校を受けて厳しくなると予想していたが、他校が例年通りの倍率だったことどう考えるか。 ⇒ 高校に入学する時点で、すでに通信制に入学する生徒が増えている。私学が就学支援で行きやすくなった。但し、クラブ活動が盛んな公立高校は人気。(教頭) ・コロナの影響は大学でも同じことが起こっている。オンライン授業により、不登校、退学が増えている。対策として、行って楽しい状況を求めていることに応える。居場所作り、教員自身が楽しめる科目を設定し、1年生に楽しんでもらう。閉校する状況は大学にもあり、生徒、教員のモチベーションをあげることが課題。(学識) ・地域の沈滞化の中で教員のモチベーションを上げるのは難しい。思い出情報誌『我らの泉鳥取』の発行、同窓会に声をかけるなど、卒業生のマンパワーを借り、歴史を担っているという気持ちをもってもらう。(教頭) ・学校が置かれている状況と格闘されていること、生徒ががんばっていること、苦しんでいることを共有したことを確認し、議論をふまえて次回、次々回チェックしたい。 																																							
<p>1 確かな学力 ○わかりやすい授業を拡充・展開する</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>質問項目</th> <th>R5</th> <th>R4</th> <th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生徒</td> <td>自分の学力の向上を実感している</td> <td>67.0%</td> <td>67.6%</td> <td>54.1%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>授業は、基礎学力の向上に重点を置いている</td> <td>96.4%</td> <td>89.3%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>基礎・基本を明確に教材の精選・工夫を行っている。</td> <td>92.9%</td> <td>96.4%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>子どもは、授業が分かりやすく楽しいと言っている。</td> <td>63.2%</td> <td>70%</td> <td>62.1%</td> </tr> </tbody> </table> <p>プロジェクト導入以降、ICTの活用、参加体験型を多く取入れ、意欲を向上させるように工夫していることが功を奏し、教員や生徒の実感について、徐々に評価が向上している。ただ、双方向の授業については、あまり向上していない。</p>					対象	質問項目	R5	R4	R3	生徒	自分の学力の向上を実感している	67.0%	67.6%	54.1%	教職員	授業は、基礎学力の向上に重点を置いている	96.4%	89.3%		教職員	基礎・基本を明確に教材の精選・工夫を行っている。	92.9%	96.4%	100%	保護者	子どもは、授業が分かりやすく楽しいと言っている。	63.2%	70%	62.1%	<p>【第2回11月10日(金)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次年度の学校行事について、具体的にはソロキャンプやサバイバルゲームなど、少人数だからこそ可能な内容にすべきでは？(地域企業代表)。 ・ヤングケアラーが令和4年度で11%程度ということで、学校の調査ということでよりリアリティのある数字が出ている。個別の支援体制については報告を聞くと大変すばらしいと思う。(地域住民) ・次年度少人数になっていくが、閉校に向けて最後の終わり方はどう考えておられるのか？(教育関係者) ⇒閉校記念事業を活用して、これまでの生徒と教育環境が著しく低下しないように工夫したい。具体的には、演劇鑑賞を閉校記念事業に位置付け、全校生徒で観劇するのも一つ。そのほかにも金融教育モデル校としての取組みを提供したりしている。(教頭) ⇒少人数となるので、これを展開、進路別のクラス編成にして、進学・看護・就職の進路実現を期したい。(校長) ・高大連携の一環として以前「偏差値教育を超えて」というシンポジウムを大学で行った。OECDの調査によると、日本の高校生は自己肯定感が著しく低いことがわかっている。自己肯定感向上のために、何ができるのかを考えていくことは重要だ。(学識経験者) 														
対象	質問項目	R5	R4	R3																																								
生徒	自分の学力の向上を実感している	67.0%	67.6%	54.1%																																								
教職員	授業は、基礎学力の向上に重点を置いている	96.4%	89.3%																																									
教職員	基礎・基本を明確に教材の精選・工夫を行っている。	92.9%	96.4%	100%																																								
保護者	子どもは、授業が分かりやすく楽しいと言っている。	63.2%	70%	62.1%																																								
<p>2 安全安心な学校 ○生徒に寄り添う生活指導</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>質問項目</th> <th>R5</th> <th>R4</th> <th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生徒</td> <td>悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い。</td> <td>75.4%</td> <td>76.2%</td> <td>66.8%</td> </tr> <tr> <td>生徒</td> <td>いじめについて困っていることがあれば真剣に対応してくれる。</td> <td>81.0%</td> <td>75.4%</td> <td>71.6%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>教職員は生徒の意見をよく聞いている</td> <td>100%</td> <td>92.9%</td> <td>88.9%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>いじめが起こった際の体制が整っており、迅速に対応することが出来る。</td> <td>100%</td> <td>96.6%</td> <td>88.9%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>保護者の相談に適切に応じてくれる</td> <td>80.9%</td> <td>86.0%</td> <td>88.1%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>いじめについて困っていることがあれば真剣に対応してくれる</td> <td>73.5%</td> <td>85.2%</td> <td>80.0%</td> </tr> </tbody> </table> <p>令和4年度より、「いじめ防止対策委員会」の活性化を図り、人間関係のトラブルが認知されたときには速やかに会議を開催し、情報を共有、組織的な対応を積み重ねている。 また、懇談会や「支援カード」等を活用しながら丁寧な対応をしている。 保護者の発問は令和4年度より「保護者の相談に適切に応じてくれる」に変更した。日ごろからのこまめな連絡と相談を実践したが肯定的意見は向上していない。</p>					対象	質問項目	R5	R4	R3	生徒	悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い。	75.4%	76.2%	66.8%	生徒	いじめについて困っていることがあれば真剣に対応してくれる。	81.0%	75.4%	71.6%	教職員	教職員は生徒の意見をよく聞いている	100%	92.9%	88.9%	教職員	いじめが起こった際の体制が整っており、迅速に対応することが出来る。	100%	96.6%	88.9%	保護者	保護者の相談に適切に応じてくれる	80.9%	86.0%	88.1%	保護者	いじめについて困っていることがあれば真剣に対応してくれる	73.5%	85.2%	80.0%					
対象	質問項目	R5	R4	R3																																								
生徒	悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い。	75.4%	76.2%	66.8%																																								
生徒	いじめについて困っていることがあれば真剣に対応してくれる。	81.0%	75.4%	71.6%																																								
教職員	教職員は生徒の意見をよく聞いている	100%	92.9%	88.9%																																								
教職員	いじめが起こった際の体制が整っており、迅速に対応することが出来る。	100%	96.6%	88.9%																																								
保護者	保護者の相談に適切に応じてくれる	80.9%	86.0%	88.1%																																								
保護者	いじめについて困っていることがあれば真剣に対応してくれる	73.5%	85.2%	80.0%																																								
<p>3 将来の生き方デザイン ○系統的なキャリア教育</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>質問項目</th> <th>R5</th> <th>R4</th> <th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生徒</td> <td>将来の進路や生き方について考える機会がある</td> <td>87.2%</td> <td>83.2%</td> <td>80.4%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>キャリア教育の目標を設定し、実践している</td> <td>85.7%</td> <td>71.5%</td> <td>86.1%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>将来の進路や職業について適切な指導を行っている。</td> <td>69.1%</td> <td>87.7%</td> <td>77.2%</td> </tr> </tbody> </table> <p>キャリア教育についての質問についての回答で、保護者の数値が著しく下がっているが、生徒と教職員の数値が近似しており、学校の保護者への発信力が足りていないのではないかと考えられる。</p>					対象	質問項目	R5	R4	R3	生徒	将来の進路や生き方について考える機会がある	87.2%	83.2%	80.4%	教職員	キャリア教育の目標を設定し、実践している	85.7%	71.5%	86.1%	保護者	将来の進路や職業について適切な指導を行っている。	69.1%	87.7%	77.2%																				
対象	質問項目	R5	R4	R3																																								
生徒	将来の進路や生き方について考える機会がある	87.2%	83.2%	80.4%																																								
教職員	キャリア教育の目標を設定し、実践している	85.7%	71.5%	86.1%																																								
保護者	将来の進路や職業について適切な指導を行っている。	69.1%	87.7%	77.2%																																								
<p>4 教員の育成(資質向上)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>質問項目</th> <th>R5</th> <th>R4</th> <th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生徒</td> <td>他の先生が授業の見学に来ることがある。</td> <td>82.1%</td> <td>55.8%</td> <td>57.6%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>若手教員と先輩教員の交流を定期的実施している。</td> <td>78.6%</td> <td>59.2%</td> <td>63.9%</td> </tr> </tbody> </table>					対象	質問項目	R5	R4	R3	生徒	他の先生が授業の見学に来ることがある。	82.1%	55.8%	57.6%	教職員	若手教員と先輩教員の交流を定期的実施している。	78.6%	59.2%	63.9%	<p>【第3回2月16日(金)】</p> <p>授業アンケートが令和3年度3.15だったのが、令和4年度平均3.27、さらに令和5年度3.36に向上した。令和5年度学校経営計画に対する評価ならびに令和6年度学校経営計画について、校長より説明し、異議なく承認された。協議の中心が、生徒数が減少する中での学校行事について、学校側の報告および</p>																								
対象	質問項目	R5	R4	R3																																								
生徒	他の先生が授業の見学に来ることがある。	82.1%	55.8%	57.6%																																								
教職員	若手教員と先輩教員の交流を定期的実施している。	78.6%	59.2%	63.9%																																								

府立泉鳥取高等学校

教職員	人権を重視した様々な生徒指導や保護者対応を行っている。	96.4%	93.1%	94.4%	<p>び協議員からの助言・意見が多く出された。</p> <ul style="list-style-type: none"> 閉校記念事業として、今年度は劇団四季シアターでの演劇鑑賞を行った。参加率は75%の参加であり、これまでの実績からは高い出席率となった。観劇した生徒の評価は94.7%の肯定的評価があり、多くの生徒の印象に残る行事となったと考える。しかし、チケット代がキャンセルできないので、かなりの席数が無駄になってしまったのが悔やまれる。今年度は閉校記念実行委員会行事として実施できたが、次年度は予算の問題もあってあまり大規模な芸術鑑賞は行えない可能性がある。(自治会部) かなりの席数の残があったのなら、保護者にも声をかけていただけなかったか？(保護者代表) <ul style="list-style-type: none"> ⇒事前に欠席する届があるわけではなく、当日に欠席が判明したため、保護者への連絡ができなかった。(自治会部) 体育祭について、例年よりかなりの人数が減少した中での開催であったが、肯定的意見が81%あり、競技に関する工夫が評価されたものと考えている。また、文化祭については、大型ディスプレイの設置など中庭ゾーンの充実が功を奏し、78.7%の肯定的評価を得た。しかしながら、次年度の行事について、どのような形で実施するか、検討を行っている(自治会部)。 体育祭や文化祭などの行事について、卒業生を巻き込むような形で、何かできないだろうか？芸術鑑賞等の資金面に関しても、卒業生から寄付を募ってその資金で行えないか？(地域住民) <ul style="list-style-type: none"> ⇒貴重な意見として承る。(教頭) 文化祭については、SDG's 万博等、地元阪南市が実施する行事に参画するなど現在検討対象としている。(校長)
<p>教員の資質向上については、今年度授業相互見学月間(11月)を設定し、他の教員の授業を見学して、お互いに評価しあう取組みを行った。また、例年通り人権意識の向上をはかることを主な目的として研修等を実施した。また日常の取組みとしても、人権尊重の観点を強調しつつ指導を行った結果、人権尊重の姿勢についてはおおむね良好な評価が出ている。</p>					

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R4年度値]	自己評価
<p style="writing-mode: vertical-rl;">1 地域やグローバルな社会を『たくましく生きる力』の基となる「豊かでたくましい人間性」の涵養</p>	(1) 安全安心な学校生活	<p>ア 「個人面談週間」やPTA 活動等を活用しながら保護者との連携を密にし、生徒の理解を深める。</p>	<p>ア 生徒の「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」80%以上 [76.2%]、保護者の「学校は親身になって相談に応じてくれる」90%以上 [86.0%]</p>	<p>ア 生徒の「悩みや相談に親身になって応じてくれる」は 75.4% 保護者の「学校は保護者の相談に適切に応じてくれる」は 80.9% 数値目標には達しなかったがアンケートを Web 形式にしたことにより1学年生徒数が減したにもかかわらず回答数は増え実質肯定的意見は増えた。(△)</p>
	(2) 主体的に多様な人と協働しながら学ぶ態度を養う。	<p>ア 年間を通してボランティア等への積極的な参加を推進する。</p> <p>イ 基本的な生活習慣の確立、教員が登下校時の指導・見守りに当たるなど遅刻防止等の指導方法を検討する。それらのことにより、生徒の規範意識を高めるとともに遅刻・欠席者数を減らす。</p> <p>ウ 学校行事で生徒が前面に立った運営を行う。</p>	<p>ア 「防犯ボランティア」「阪南 TV はなていチャンネル」「鳥東ネット」「地域清掃」「農園活動」等ボランティア活動等に延べ 100 人以上の生徒が参加 [91 名]</p> <p>イ 年間遅刻者数を 3000 人以下 [5123 人] 年間欠席者数を 3000 人以下 [5682 人]</p> <p>ウ 行事運営に 100 人以上の生徒が関与するとともに生徒の「文化祭・体育祭は楽しく行えるよう工夫されている」85%以上 [82.5%]</p>	<p>ア「はなていチャンネル」は今年度要請がなく、「防犯ボランティア」は計 20 名、農園活動は計 45 名の生徒が参加した。また泉南青年会議所主催の「水鉄砲フェスタ」には生徒自治会を中心に 10 名参加するなど他の行事等も合わせ、延べ 104 人の生徒が参加した。(○)</p> <p>イ 年間遅刻者数 2905 人 (○) 年間欠席者数 2581 人 (○)</p> <p>ウ 行事運営に参画した生徒は 30 人 目標の想定は昨年の在籍 400 人に対する割合 22.7%である、現在の在籍数からは 15 人となり目標を十分達成している。(△) 「文化祭、体育祭は楽しく行えるよう工夫されている」は 84.4% (△)</p>
	(3) 人権尊重の教育の推進	<p>ア 人権教育推進計画の作成及び実行</p> <p>イ 同和教育の推進・ジェンダー平等教育の推進</p>	<p>ア 生徒の実態を踏まえ、本校生徒に即した計画を立て、計画に沿った学習・研修を実行する。</p> <p>イ 人権教育の一環として同和教育・ジェンダー平等教育の推進に努め、教員への研修、生徒への教育をそれぞれについて年間 1 回以上実施する。</p>	<p>ア 12 月 7 日、コミュニケーションスキル向上のためのアサーショントレーニング研修を外部講師で実施、教職員評価は 4.53 (5 段階) と好評であった (○)</p> <p>イ 9 月 4 日、「高等学校近畿統一用紙」制定の背景について、人権教育 COMPASS を教材に、教頭を講師にミニ研修を実施するなど教員・生徒ともに目標を上回った。(○)</p>

府立泉鳥取高等学校

<p>2 地域やグローバルな社会を『たくましく生きる力』の基となる「確かな体力と学力」の定着</p>	<p>(1) 「学ぶ楽しさ」「わかる喜び」生徒のやる気を引き出す。</p> <p>(2) 生徒に「知能・技能」「思考力・判断力・表現力」の育成。</p>	<p>ア 学習支援クラウドサービスを活用し ICT 環境整備に努めるとともに「学ぶ楽しさ」「わかる喜び」を味わえる、本校に適した授業方法を研究する。</p> <p>イ 各授業や講習、補習の充実を図りながら、基礎基本の定着に努める。</p> <p>ア 授業・講習等が直接進路指導に結びつくよう基礎学力、教養を身に付けさせる。</p> <p>イ 担任、学年団及び PTA 等の協力を仰ぎながら漢検・英検等の資格試験を推奨する。</p> <p>ウ 授業規律を大切に「考える」「まとめる」「発表する」参加体験型のアクティブラーニングを踏まえて教え方を研究する。</p>	<p>ア 学習支援クラウドサービスを活用し教員の「ICT を使って授業を展開している」100%維持〔100%〕 教員の「ICT を使って双方向の授業を展開している」60%以上〔実績なし〕 生徒の「授業などで1人1台端末を利用している」90%以上〔80.6%〕</p> <p>イ 放課後、夏・冬の休業中に計画的で効果的な講習、補修の実施に努めるとともに生徒の「授業はわかりやすく楽しい」80%以上〔76.1%〕</p> <p>ア 生徒の「教え方に工夫をしている先生が多い」70%以上〔66.1%〕</p> <p>イ 全生徒が漢検を受験 英検の受検者数を30名以上〔21名〕</p> <p>ウ 生徒の「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」70%以上〔66.1%〕 生徒の「自分の学力の向上を実感している」70%以上〔67.4%〕</p>	<p>ア 「ICT を使って授業を展開している」100%維持 (○) 双方向の授業は32.1% (△) 「授業などで1人1台端末を利用している」83.2% (△) 生徒の「授業はわかりやすく楽しい」74.9% (△)</p> <p>ア「教え方に工夫をしている先生が多い」は78.8% (◎)</p> <p>イ 全生徒が漢検を受検 (○) 英検受検者は9名 (△) ※昨年度は全生徒の7.5%想定、今年度在籍者の7.5%は16名。</p> <p>ウ 「自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」が71.1% (○) 生徒の「自分の学力の向上を実感している」は67.1% (△)</p>
<p>3 将来の生き方をデザインし、自ら学び続けることができる生徒の育成</p>	<p>(1) キャリア教育プランの実行。</p>	<p>ア 1年次より系統立てて、生徒個々が将来の生き方を考える機会を与える。</p> <p>イ 大学等オープンキャンパス、インターンシップ、職場体験、看護体験等への参加を促す。</p> <p>ウ 粘り強い指導を続け進路未決定者を減少させる。</p>	<p>ア 生徒の「将来の進路や生き方について考える機会がある」85%以上〔83.2%〕</p> <p>イ 大学進学者のオープンキャンパス参加数100名〔90名〕、インターンシップ等への参加者の10%増加〔28名〕 生徒の「先生は進路についての情報をよく知らせてくれる」85%以上〔83.6%〕 保護者の「進路指導面で、学校は家庭への連絡や意思疎通を、きめ細かく行っている。」80%以上〔71.9%〕</p> <p>ウ 大学、短大進学者の100%進路決定 就職希望者の就職未決定者0人 進路未決定のままの卒業者0名〔3名〕</p>	<p>ア「将来の進路や生き方について考える機会がある」87.0% (◎)</p> <p>イ オープンキャンパス参加者数149名 (◎) インターンシップ参加者は6名 (△) 生徒の「進路についての情報を知らせてくれる」86.0% (○) 保護者の「進路指導面で、学校は家庭への連絡や意思疎通をきめ細かく送っている」69.1% (△)</p> <p>ウ 大学、短大進学者決定率91.7% (△) 就職未決定者5人 (△) 進路未決定者3人 (△)</p>

府立泉鳥取高等学校

4 自ら学び続ける教師集団の確立	<p>(1) 授業改善のための学び合い。</p> <p>(2) 教員や保護者が本校生徒、学校の実情を知る。</p>	<p>ア 研修会を開催し資質向上に努める。 近隣の学校、教員等とも連携をとり、得た情報や知識を報告する機会を設けその成果を共有する。</p> <p>イ 全国等で開催される講演・研修会や先進的な取り組みをする学校・PTA・部活動等に出向き研修する。</p> <p>ウ 授業見学の機会を増やすことにより、自己の授業改善に活かす。</p> <p>ア 経験の少ない教員と経験豊かな教員との情報交換をする場を定期的に設ける。</p> <p>イ 全教員がミドルリーダーの自覚を促し、学校の活性化に向けての取組みを立案させる</p>	<p>ア 年3回以上の研修会を開催する。〔8回〕 教員の「学校の教育活動について、教職員で日常的に話し合っている」95%以上〔82.1%〕</p> <p>イ 学期ごとに1名以上が研修結果等を報告〔2名〕 教育センター研修等を6人以上が参加する〔7名〕</p> <p>ウ 生徒の「他の先生が授業を見学に来ることがある」70%以上〔55.8%〕</p> <p>ア 週に1回学年を超えた交流の場を設け情報交換、意見交換の場を設ける</p> <p>イ 教員の「学校教育計画・学校経営計画の重点目標に照らして目標を設定し教育活動を行う」85%以上〔78.1%〕</p>	<p>ア 授業展開に係る研修会を6回実施、また、教職員同士の相互授業見学を実施し、個々の教職員の工夫を相互評価してエンパワメントを図った。(◎) 教員の「学校の教育活動について、教職員で日常的に話し合っている」96.4% (◎)</p> <p>イ 研修結果報告は3名が実施 (◎) 教育センター研修等の参加者は8名 (◎)</p> <p>ウ 生徒の「他の先生が授業を見学に来ることがある」82.1% (◎)</p> <p>ア 学年・教科・分掌を横断する人権教育推進委員会および教育相談委員会については、週1回定例で情報交換を行っている。また、いじめ防止対策委員会、支援教育委員会、修学保障会議等を含め、多くの情報共有の場を設定した。(◎)</p> <p>イ 教員の「学校経営計画」に照らして目標を設定し教育活動を行う」は92.9% (◎)</p>
5 働き方改革に関する取り組み	<p>(1) 業務改善の推進</p>	<p>ア 学校行事や会議、打合せ等の見直し、会議や打合せ等の効率化、事務の電子化等の合理化を図る</p> <p>イ 部活動の負担軽減</p> <p>ウ 勤務時間に関する意識改革と時間外勤務の抑制</p> <p>エ 学校を支援する人材の確保</p>	<p>ア 職員会議の回数を20回以内に抑える〔20〕 会議の資料をペーパーレス化し事前提出化による欠席連絡を学習支援クラウドサービスの活用により効率化を図る。職員会議についてはすべての会議でクラウドサービスを活用する。</p> <p>イ ガイドラインの徹底、土日の活動の負担減 夏季「5日以上」冬季「6日以上」の学校閉庁日を設ける。毎週月曜日または水曜日を休養日とし、土日はどちらかを休養日とする。</p> <p>ウ 毎週水曜日を一斉定時退庁日に定め生徒・教職員に徹底するとともに厳守させる。 月80h以上の超勤者0人〔2人〕</p> <p>エ 教育ボランティアの募集、来てもらっているカウンセラーの活用促進、スクールソーシャルワーカーの導入、福祉協議会、NPO団体などの活用、TNET等の英語専科を担当する教師などの活用、部活動指導員、スクールサポートスタッフなど、多様なスタッフの配置促進</p>	<p>ア 職員会議は年間20回 (○) 職員会議資料はpdf化し、Google共有フォルダを活用してペーパーレスを図った (○)</p> <p>イ 部活動は沈滞化したため、ガイドライン以上には行われていない。夏季5日・冬季6日の休業日を確保 (○)</p> <p>ウ 毎週水曜日一斉提示退庁日は達成 (○) 月別時間外勤務は最大で54時間46分で80時間以上は0人 (◎)</p> <p>エ SCは年間12回、SSWは年間12回来訪し、多くの助言をいただけた。 (○) 教育支援員・生活介助員についても、積極的に活用できた。T-NETについては、104日を活用した。(○)</p>